

◆新技術定着試験

イバラノリ養殖試験（海藻類養殖試験）

八重山農林水産振興センター 中村勇次

1. 目的

竹富町西表島では、イバラノリをサラダ等で食用に利用している。しかし、これらの海藻は天然物に依存しているため、季節的な変動があり安定して利用されてはいない。地元漁業者からの要望もあり、南風見崎東沖では平成20年9月1日付けでイバラノリひび建て式養殖の漁業権が免許された。よって、漁業権内においてイバラノリの養殖試験を行うことにした。

2. 材料及び方法

天然物のイバラノリを採取し、これをモズク網の節にループ帯で固定し、モズク網をブイで浮かせる方法により養殖試験を行った。

3. 結果及び考察

1月にイバラノリ養殖漁業権内の調査を行なったが、まだイバラノリが生育していなかった。

2月末頃から天然のイバラノリが見え始めたことから、3月2日に仲間崎でイバラノリを採取後、南風見崎沖にて挟み込み作業を実施した。採取したイバラノリを台はかりで計ったところ湿重量で6kgであった。採取したイバラノリは、モズク網の節に一掴みずつループ帯で固定した。作業当日で途中までしか挟み込めなかったもので、後日漁業者に挟み込みしてもらうことにした。また、浮きを準備していなかったため、モズク網はしばらく海底に接地し、後日浮きを固定して浮かせることにした。

3月25日にイバラノリ養殖試験調査と途中免許区域の確認を行った。途中免許予定区域は、仲間川南島の浅瀬である通称仲間崎にあらかじめブイを設置してあったので、GPS受信機で位置を確認した。すぐ近くに小型定置網があり、

その網から距離をとって平行に漁業権予定区域を設定した。モズク網にイバラノリを挟み込んだカ所の確認を行ったところ、網にはインシュロックタイのみが残っており、イバラノリが消失していた。当初モズク網を浮かせる予定であったが、ブイの設置が間に合わず、海底に接地していたことも要因の1つと考えられる。また、去年は南風見沖にも天然イバラノリが繁茂していたが、今期は天然物がまったく見られなかった。天然物が繁茂する仲間崎で途中免許を取得次第早急に場所による比較試験を行う必要がある。

4. 今後の課題

天然物を挟み込む今回の方法では、波浪によりイバラノリが消失する現象が見られたため、その対策を検討する必要がある。目印用のブイの一部にイバラノリが着生しているのが確認されていることから、モズク網を浮き流し式にすることである程度の波浪対策が可能かどうかを試験する必要がある。また、人工採苗が可能であれば、培養種による種付けを検討したい。



① 3月2日仲間崎に生育しているイバラノリ



④ 3月2日イバラノリを挟み込んだモズク網の様子



② 3月2日仲間崎で採取したイバラノリ



⑤ 3月25日モズク網からイバラノリが消失



③ 3月2日仲間崎で採取したイバラノリをモズク網に挟み込んだ



⑥ 3月25日モズク網にはループ帯のみが残りイバラノリが消失していた